

2017年6月2日

「依岡レポート下書き」と教員コメント

今回私が取り組みたい課題は依岡先生の読書に関する課題である。私は、課題図書の中で、平野哲一郎『本の読み方~スローリーディング』と、茂木健一郎『脳を鍛える読書のしかた。』を読んで課題に取り組む予定である。

この2冊の本を選んだ理由は、これから大学生活の中で多くの本を読んでいきたいし、また多くの本を読む機会があるだろうが、その一回一回を無駄にせず、そこで得た知識を最大限活用できるようにしていきたいと考えているが、実際どのようなことに注意して読んでいけばいいのかよく理解できていないからである。速読というものはよく聞くため、大体はどのようなものなのか分かっているが、スローリーディングは、聞いたことはあるが、ただ文字通りゆっくり読めばいいというものでもないため、しっかりこの平野哲一郎さんの本を通じてその読み方を学びたい。また、それと関連して、読書を通してさらに脳を鍛えることができるということで、スローリーディングと同時に活用できるものである。よって私はこの2冊の本を読み、そこから得た知識を交えて、今後の自分の課題を見つけ、その自分の課題に関する反論を書く予定である。

また、現時点で調べたことは、以下のようなことである。「スローリーディングを実践する人たちは、定期的に読書することについて集中力のアップやストレスの軽減、思考力や話を聞く力、共感力のアップといった数多くのメリットを挙げる。」(THE WALL STREET JOURNAL「スローリーディングのすすめ—集中的読書もたらす効果」<http://jp.wsj.com/articles/SB12785023003277603623104580159171102735244>、2017年6月4日)このほかにも、速読、多読よりもスローリーディングの方が多くの利点があるという内容のものを多く見かけた。それが確かなものなのかどうか、選んだ2冊の課題図書を通じて判断していく。

選んだ課題:依岡先生のレポート

課題図書を読んで、その本の重要性の観点から選んだ理由を書き、自身の主張に沿って内容を要約する。そして自身の主張に対する批判を検討し、今後の読書実践についてまとめる。まず、しなければならないことは課題図書を決めて読むことである。候補としては、

コメント [y1]: 何に対する「反論」でしょうか？

コメント [y2]: そうですね、ネット情報よりは、まずは本を読んでみるといいでしょう。

ショウペンハウアーの「読書について 他二編」もしくは、茂木健一郎の「脳をきたえる読書のしかた」を挙げる。ショウペンハウアーは高校の倫理の授業で習った。その際あまり深く学ぶことはできなかったが、彼の私からすると異質な思想に興味を持った。そのため、考え方の異なる人から見た読書がどのようなものなのか知りたい。もう一方は、脳を鍛えるといった視点から読書をとらえているため、私の模索する新たな読書の方法の手がかりが得られると踏んでいる。

今回は、今までしてこなかった新たな方法での読書をテーマに書くつもりである。

僕は、「読みの整理学」という本を読んでレポートを書くことに決めた。まず本の内容を軽く説明し、それに対して自分の意見を書き、最後に自分が考える実践したい読書についての考察を考えていきたいと思う。最近の日本人は活字離れの傾向にあり、紙書籍の発行部数が減っていると聞いたことがある。電子書籍と紙書籍の違いはどこにあるのだろうか。

今回の中間レポートを書くにあたって、現時点の構想は、以下のものである。

課題図書のうち、ショウペンハウアー『読書について 他二篇』、齋藤孝『読書力』、外山滋比古『読みの整理学』、茂木健一郎『脳をきたえる読書のしかた。』、依岡隆児『読書のススメ~四国からグローバルに』を読んで、比較する。そして、読書のしかたについての共通点と非共通点を見つけ出し、自分の読書のしかたを決める。

そのためにしなければならないことは、上に挙げた五冊の本を読んで、比較検討することである。

私は依岡先生の授業を受け、紹介された本のほとんどが気になった。よって、今回は課題図書を読んでレポートを書いていきたい。今一番気になっている本は『読みの整理学』だ。なぜなら、授業で聞いた「既知を読む、未知を読む」という言葉が、今自分が実践しようとしている読書の仕方そのものであるからだ。私がいつも読む本は好きな著者のミステリーもので、読みづらい文章や全く違うジャンルの本を読むことがない。だから、大学では夏目漱石、芥川龍之介の作品など時代を問わず、また自己啓発本、新書などジャンルを問わず、様々な本を読んでいきたいという思いがあった。まだどの本でレポートを書くのかは確定していないが、『読みの整理学』はぜひ読みたい。他の本も実際に手に取って、自分の今後の読書活動がよりよいものになるような本を選んでいきたい。

私の取り組むレポート課題は、依岡先生の課題図書で、茂木健一郎著の「脳を鍛える読

コメント [y3]: 書名には二重カッコをつけてください。

コメント [y4]: 「私には異質の彼の思想に…」とした方がいいでしょう。

コメント [y5]: 違う考え方の本を読むのは、いい勉強になるでしょう。

コメント [y6]: 書名には二重カッコをつけてください。

コメント [y7]: この問題について書いている本もたくさんあります。探してみるといいでしょう。

コメント [y8]: いいですね。大変ですが、頑張ってください。

コメント [y9]: いままで読まなかった種類の本にチャレンジするきっかけになるといいですね。大学時代にはそういう本にこそ出会ってほしいですね。

書のしかた」のレポートである。茂木健一郎は脳科学者として知られている。その茂木健一郎の著書である課題図書を読み、自分の今までの読書のしかたを見直す。そして本を読んだ後、自分がこれから生かしていけるように読書のしかたを考察していく。脳科学についての知識はほぼ皆無であるから知らない単語を調べていく必要があるだろう。

私は、4つの課題のうち依岡先生のレポート課題を選ぶことにした。

読書イベントへの参加ではなく、課題図書を読んで考えたいので、それぞれの課題図書がどのような内容であるのか、またその筆者についてインターネットで調べた。どの本を選ぶかは未定であるが、単に興味を持ったものや読みやすそうなものではなく、内容を吟味した上で自分の読書の仕方に最も役立つと感じた本を選ぶようにしたい。また、説明に「(最低でも)一冊」とあるように、何冊か読んでみて意見や考え方の違いや共通した点などを読み比べることも重要であるので、心がけるようにしたい。

私は、齋藤孝の『読書力』(岩波書店、2002年)を読んでみようと考えている。理由は、現在の日本では読書離れが進行しているからだ。文部科学省の平成25年度国語に関する世論調査によると「1か月に本を1冊も読まない」と答えた人の割合が47.5%と最も高い」という調査結果が出ている(平成25年度国語に関する世論調査「3 読書について」の項目による)。こういった問題に対して、もう一度読書によって得られる効果や、知識の重要性を見つめなおすことで、読書の意義を伝えたいと考えたからである。

私は、読書によって得られる知識はもちろん大事だと考えているが、それよりも感受性や語彙力、表現力が広がることに読書の意義を感じている。そういった面での読書の良さをアピールできる内容をこの本から読み取っていききたい。

参考ウェブページ

文部科学省「平成25年度国語に関する世論調査」, http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/h25_chosa_kekka.pdf, 2017/6/4 アクセス

私は齋藤孝著の『読書力』(岩波新書、2002)を読んでいる。読書の勧めの授業で「読書はしてもしなくてもいいものではなく、ぜひとも習慣化すべき『技』だ」(齋藤孝著『読書力』岩波新書、2002)という言葉が紹介された。読書は大学生にとって不可欠なものである。論文やレポートを書く際に必要な情報集めるには文章を読む必要があるのはもちろん、読書をすることで思考力、想像力などを身につけることができ自己形成につながる。これからの大学生活の中で読書を技として身に付けて立派な人間に成長するために、得られるもの

コメント [y10]: 書名には二重カッコをつけてください。

コメント [y11]: 本の内容をまずまとめるようにしてください。その本についてのコメントをいれて、それから自分が大学時代に実践したい読書の仕方を書いて下さい。

コメント [y12]: いいですね。複数の本を読むと、色々な意見・考え方があることに気づくことでしょう。

コメント [y13]: これをテーマに据えて、論じてみてください。興味深いですね。

が多そうなの本を読んだ。

レポートや論文を書く際の情報源には論文や本、Web ページなどがある。どれにも共通しているのは文章を読む点である。そしてそれぞれの文章から必要な部分だけを見抜く必要がある。重要な部分だけを抜き出し必要な情報を得ることは社会に出ても役立つものだ。その力を身に付けるには読書をし、読書力を身に付けることがよい。また、本は有名な人との一対一の対話である。ある分野の専門家が直接語りかけてくれるのである。このことは貴重な経験となり得られるものも大きい。たくさんの本を読むことでたくさんの著者と出会い、それぞれの考え方に触れることができる。その中には自分では考えもつかなかった考え方もある。自分では思いつかない思考に触れることで新たな思考ができるようになる。つまり考え方の幅が広がるのだ。

反対意見としては、自己形成は人と直接接することでできる、という意見だ。まだ本を読み終えていないので、まずは本を読み終えたい。そして読書でしかできない自己形成について調べなければならない。また人と直接接することでできる自己形成と読書でできる自己形成の相違点を見つけ検討しなければならない。

自分の実践したい読書は、今まで読んだことのない分野の本を読むことである。触れたことのない分野の本は読みにくいだろう。そういった本を読む力も身につけたい。分野の違いで同じ物事でも考え方が違ってくる。この違いに触れることで幅広い考え方に触れることができ、思考の幅を広げることができる。

読む本:脳を鍛える読書のしかた

なぜ重要か:何事でも行う時には効率が大事だから。(他の根拠も考える)

自分が実践したい読書方法:大学生は時間があると思われながら部活やバイト、課外活動で大忙しなので、時間の割に合う、またはそれ以上の内容を吸収する必要がある。ただ字面を追うのではなく、内容をちゃんと理解できる読書を取り入れる。

調べなければいけないこと:様々な読書法の特徴(速読や部分読みなど)

電子書籍と普通の本のメリットとデメリット

ニュースなどで情報を得ると、本によって情報を得るとどちらがどんな利点があるか。

私は、読書イベントに参加してみたいと考えている。最近あまり読書をしていなかったせいか、読書レポートを書く際に読書をしたとき、あまり集中できなかった。これからの大学生活では、大量の論文や資料を読む機会があるだろう。その時のために今から何かしてみたいと思ったのでこのレポートを書くつもりだ。

イベントの中の「まちライブラリー」にある「ビブリオラボとくしま」というものが気

コメント [y14]: すでにレポートの構成ができていますね。反対意見も想定して論じようとしているのも、いいと思います。大変結構です。

コメント [y15]: 書名には二重カッコをつけてください。

コメント [y16]: どういうこと?もう少しわかるように書きましょう!

コメント [y17]: 「きちんと」あるいは「正確に」

コメント [y18]: 論じるポイントを絞った方がいいでしょう。

になっている。ビブリオバトルというものがあることは以前から知っているがそれに関係があるのだろうか。

読書イベントに参加できなかったとしても気になっている本が何冊かあるので、今のうちに探しておこうと思う。

大学生にとって読書は重要である。レポートを書くとなると必ず本を読まなければ書くことはできない。私たち学生はこれから先の4年間で多くの本を読むことになるだろう。そこで、この機会に読書と向き合いこれからの読書に対する姿勢を考える。

私は課題図書である『脳を鍛える読書のしかた。』を読む。私はこれまで小説を読むことが多かったが、それはただその物語を楽しむだけでよかった。しかし、大学生が読む本は新書である。読むときはただ読むだけではいけない。一つ一つの文章をきちんと理解し、自身の考えを持ちながら読み進めなければならない。その点でこの本の題名に惹かれた。脳を使って本を読むことを実践してみたい。

私はこの本を読み、読書で脳を鍛えるとはどういうことなのか、また、読書で脳を鍛える必要性を考えていきたい。少し調べてみると、読書が脳に与える効果には「脳の活性化」、「アルツハイマーの予防」、「ストレスを軽減する」等がある。読書と脳には強い関係性があると考えられる。読書が脳に与える影響についてより深く調べていく。

『本の運命』を読む。図書館で探して無ければ購入する。現在電子書籍が広まっていて、紙媒体の本よりも良いという意見をよく耳にするようになった。逆もあり、紙媒体のほうが良いという声もある。私は紙派。本の存在が脅かされる現代においての本の行く末を知れるのではないかと読むことを決めた。(紙媒体・電子書籍のどちらがよいかの統計などがあればそれを調べる。または存在する種類の数)

私は依岡先生の読書についてのレポートを提出しようと考えている。私は趣味として読書をするが、その際読む本は小説ばかりで、作家やジャンルにも偏りがある。以前、依岡先生の講義で、読書を必然と考えるか、趣味の範囲でかまわないと考えるか、本の読み方として三色ボールペン読み、アルファ読み・ベータ読みなど学者によってさまざまな考え方があった。それぞれの学者が提案している読書の方法を比較し、メリット・デメリットを挙げる。そのために、時間の許す限り課題図書をたくさん読み、比較対象を少しでも増やした上で自分に合った読書方法を見つける。

コメント [y19]: 関係はしています。大学では附属図書館に「阿波ビブリオバトルサポーター」というサークルがあり、活動をしています。6月12日(月)18時半から附属図書館で彼らがビブリオバトル大会を行います。参加してみてください。それをもとにレポートを書いてもいいですよ。

コメント [y20]: それが大事ですね。

コメント [y21]: 新書だけが学生が読む本ではないです。むしろこれからは単行本や論文を読むことになるでしょう。

コメント [y22]: 「いて」を一つ取る。

コメント [y23]: 『本の運命』ではこの問題はあまりあつかっていませんので、ご注意ください。

コメント [y24]: よい心がけです。頑張ってください。

私は読書が好きで大学でぜひ沢山の本を読みたいと思っているので、依岡先生のレポートを書くことに決めた。茂木健一郎の『脳をきたえる読書の仕方。』を本当は読みたいかったのだが、大学の図書館にはなかったので、斎藤孝の『読書力』を読むことに決めた。ネットで内容紹介を見てみると、「読書はスポーツだ」という章があり、読書とスポーツは私の中で結びつかないので非常に興味をもち、この本を読むことに決めた。本を読むことは、単に物語を楽しむだけでなく、自分の感性や語彙力を鍛えるものであると思う。だから私たちには「読書力」なるものが必要である。この本を読んでぜひともこれからの読書に役立てていきたい。

コメント [y25]: なかったですか。大学の図書館には文庫本や新書はあまり置いてないですね。市立図書館など他の図書館や本屋に行けば、あったと思います。本を探すことから、読書ははじまっているみたいなのです。それでも読みたい本がない場合は、私たち教員ご相談ください。

「読書は知識を得て、想像力を育むために大切だ」というのが私の意見である。読書をすることで、普段の話し言葉の中では使わない、書き言葉特有の表現や語彙を学ぶことができるし、自分の知らない世界の話を知ることができる=知識となる。また、文章からその場面や状況を思い浮かべて、そこからまた文章によってその話を進展させて膨らませていくという作業が、想像力を豊かにする。

コメント [y26]: この中で「=」の使い方がわかりません。

読書ではなく、他の方法によってそれらは可能だという意見はあるだろう。そういった反対意見の理由・根拠を調べて、レポートの中でそれらを紹介しつつ、それらは論理的であるかどうかを検証する。それは、自分の意見を論理的にする手段の一つとして、重要であるからだ。

コメント [y27]: 反対意見を想定して書く事は大切ですね。結構だと思います。

私が依岡先生の読書に関するレポートを書くにあたって読みたい本は、茂木健一郎の『脳をきたえる読書のしかた。』である。

コメント [y28]: 書名には二重カッコをつけてください。

また、この本を読んだ後にもう一冊本を読み、この本で得た読書の方法を実践し、結果をレポートに書きたいと思う。

どんな本を読むのか、どんなことを書くのかなど、詳しくは本を読んでから決定する。

コメント [y29]: 読んだ本の内容とそれについての自分のコメントを書いたうえで、自分が大学時代に実践したい読書の仕方を書くようにしてください。

私は外山滋比古の『読みの整理学』という本を読んで大学時代に実践したいと考える読書の仕方を考えようと思う。

この本は未知を読むベータ読みと**基既知**を読むアルファ読みというふたつの読み方について述べている。この二つの読み方を身につける方法を本を読んで学び、大学時代の読書の仕方にもう生かしていけるか考えていきたい。

コメント [y30]: 「既知」「基」は取る。

私はショーペンハウアーの『読書について』を読んでレポートを書くつもりである。な

ぜなら、外国人と日本人との読書の仕方に違いがあるのか知りたかったからである。レポートを書くにあたって、私がすべきことは、まず、この本を熟読することだ。そのなかでほかの課題図書と比較して、そのうえで自分の実践したい読書の仕方や読書活動をするか考えて書くという風にしていくつもりだ。

コメント [y31]: この点については、この本が参考になるかどうか、わかりません。

コメント [y32]: ぜひ複数の課題図書に目を通してください。

私は今回、依岡先生の読書に関するレポート課題を選んだ。まず課題の本である『読書力』を読んでみたが、当たり前のように読書を良しとするものであった。また、この本は読書の長所を列記したものであり、まるで読書の効能を書いた処方箋のようなものであった。これは近年の若者は何をするにしてもその行為による利益を求めることが多いからだろう。しかし、私は読書の素晴らしさを理解しているものの、長所ばかりを並べられてはむしろ疑問が湧いてきてしまう。以前行われた依岡先生による総合科学入門講座のプリントに、『読書力』では読書に対して肯定の意見をもつものであるように示されていた。プリントに示された書物の中で、比較的読書に対して否定の意見をもつと思われる『乱読のセレンディピティ』という本を読むことによって自分の中に新たな意見を取り入れたい。

コメント [y33]: たしかに齋藤孝の本とは、読書のとらえ方が違う本があります。ショウペンハウアーの『読書について』も読んでみるといいでしょう。

また『読書力』の中では本を読むときは、その本を自分のお金で買い、必要な部分に線を引くことが良いとされていた。この本を読み筆者の意見に納得した部分もあったが、今まで図書館で借りた本を読み、なおかつ自分で買った本でさえ一切書き込みをしたことがない私にとっては少し受け入れがたい意見であった。このようなことから、自分のように本をよく図書館で借りたり、書物に書き込みをすることに抵抗があったりする人に最適な読書方法を考えることによって、自分が大学時代に実践したい読書方法を考えるつもりだ。

依岡先生による読書レポート

ショウペンハウアー著『読書について他二編』(岩波 文庫)

1.現在、読書の様式は大きく変わってきている。一昔前までは本を持ち、黙々と読むことが一般的であった。しかし今ではタッチパネルの携帯機器が普及し、インターネットが身近になり、電気書籍などの売り上げも伸びてきている。将来、読書とはどのような形式に変化するのか。

2./3.現在未読であり知識不足であるため、後日読んでからまとめる。

4.まだ知識不足であるため主張が変わるかもしれない。現時点では、読書は本を自分で読むだけではなく、他にも形式があるのではないか。将来どうなるのか、そしてこれから大学生活の中で自分が出来ることは何か。

コメント [y34]: 自分の主張とは、なんでしょう。あらかじめ自分の主張を仮説として、検証してみたらどうでしょう。